



市民レポーター A・E・K:nom B・F:小山 C・L:高橋 D・J:千種

市民レポーター G:こうびけ H:山本 I:羽田野

令和6年1月8日(祝)

二十歳のつどい

第一部

東陽中学校区・その他
午前10時～11時

第二部

誠風・小津中学校区・その他
午後0時30分～1時30分

1月8日に、テクスピア大阪で二十歳のつどいが行われました。
式典は、泉大津市PR大使の川田裕美さんの開会宣言で始まり、出席者を代表して2人が誓いの言葉を述べ、決意を新たにしました。

また、泉大津市吹奏楽団による演奏、参加者全員によるビンゴ大会などが行われました。
当日は700人が参加し、それぞれの思いを胸に、二十歳の門出を迎えました。

問合せ スポーツ青少年課

式典の様子はこちら▶



第一部
出席者代表挨拶(一部抜粋要約)
相神 琉華さん

本日は、このような式典を開催いただき誠にありがとうございます。
私は小学生から習っているダンス教室を通じて、泉大津市のイベントに多く参加してきました。若者や子どもたちも楽しめるように伝統の盆踊りを新しくした「令和盆ダンス」にアンパサダーとして関わらせていただきました。そんな関わりの中で泉大津の子どもたちを思う心温かい人たちに多く出会うことができました。
私の好きなドラマに主人公が何度も生まれ変わり、その度に違った人生を送るという物語があります。そして、その人生によって成人式でも関

わる人や距離感が変わってくるといふシーンがありました。今の自分が選択する一つ一つのことが、この先の人生を大きく変えてくれるものだと思います。今、ここにいる皆さんと出会えたことを当たり前とせず大切にしたいです。まだまだ未熟な私たちですが大人への第一歩を踏み出したいと思っています。
私たちを、ここまで育ててくれた両親、家族、来賓の皆さまに出席者を代表しまして、心より感謝申し上げますとともに、出席者代表としての挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

メッセージ(一部抜粋要約)

二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。
今日、この日を機に、ご両親やご先祖様に感謝の想いを伝え、どのように生きていくのか誓いを立ててくれると嬉しく思います。
私から3つのお話をします。
まず、今の泉大津市の動きについてです。令和5年6月に開園したシーパsparkに、今年の夏ごろレストランがオープンし、さらににぎわいのあるエリアになります。また、12月には、泉大津急性期メディカルセンターの開院や現病院の周産期小児医療センターへのリニューアルで命を育み守る体制が強化されるなど、市は大きく動き出しています。この動きを、さらに大きくするためには皆さんの力が必要です。皆さんの子や孫にバトンタッチする想

市長 南出 賢一



いを持って、一緒にまちづくりを担っていただくと嬉しいです。
次に、夢と志の違いについてです。夢は自分の笑顔に返ってくるもの、志は自分だけではなく周りの笑顔につながるものです。いろいろな経験を積んで、志に成長させてください。そして、周りの人たちの笑顔にもつながってください。
最後は、命の使い方です。命には限りがあります。時間の使い方は、命の使い方です。一日一日を大事に感謝の気持ちを持って、後悔しないよう、さまざまなことにチャレンジしてください。
結びに、二十歳の門出を迎えられた皆さんの人生に、笑顔がたくさん生まれますように、幸多きものになりますように、心からご祈念申し上げます。

第二部 出席者代表挨拶(一部抜粋要約) 橋本 結菜さん



この度、二十歳になった私たちのために、このような会を開いていただき、深くお礼申し上げます。
私は、小学校5年生で引っ越してきてから現在まで、地元のダンススタジオに通っています。ダンスを通じて、住む地域や年齢の違う仲間たちやダンスの先生方に出会い、良い刺激をレッスンの度にもらっています。また、地域のイベントにも参加させていただくこともあり、その際に、地域の人たちにたくさんの声援をいただき、このまちに住む人たちの優しさや温かさを実感できました。
現在、私は税理士法人で働いてい

ます。まだまだ未熟で、周りの人たちに支えられながらではありますが、できるだけ早く一人前の社会人になれるように、精進してまいります。そして、仕事や大好きなダンスを通じて、この泉大津市に少しでも恩返しできるように、努力を重ねていきたいと思います。
私たちを今日まで苦勞して育ててくれた保護者の皆さま、辛い時も楽しい時もともに過ごしてくれた友人、優しく、時には厳しく、指導してくださった学校の先生方、地域の人たちに深く感謝申し上げます。そして、泉大津市のさらなる発展をお祈りしまして、出席者の代表挨拶とさせていただきます。

市民
ワーク
ショップ

「つむぐ ひろがる #おづの未来ラボ」を開催しました！

「#おづの未来ラボ」とは？

皆さんが10年後や20年後の泉大津市を思い描き、

「こんなまちになったらすてきな」という将来像を話し合うワークショップです。

泉大津市に住んでいる人や泉大津市内で働いている人、いずみおおつ若者会議の学生などと

全4回実施した活動内容を一部紹介します。

話し合った内容は、第5次泉大津市総合計画へ反映する予定です。

詳しくは
こちら▶



第1回 9月30日(土)

泉大津はいま、どんなまち？

総合計画とは何かを学び、市の施策について市長から説明を受けました。

市が取り巻く環境を学んだのち、「泉大津のいいところ、なおしたいところ」を地域別に分かれて意見交換し、市の現状を確認しました。



第2回 10月21日(土)

どんな未来にしたい？

市の現状を踏まえて、「泉大津がどんなまちになったら良いと思うか」「どんなまちを目指したいか」を年齢別に分かれて意見交換しました。

また、理想像を分野で分け、特に重要と思うのは何かを検討しました。

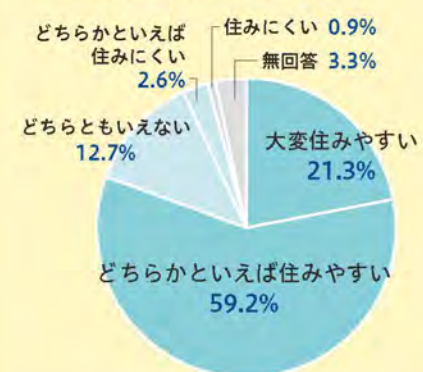


第5次泉大津市総合計画策定に向けて実施した 市民アンケートの結果(一部)を紹介

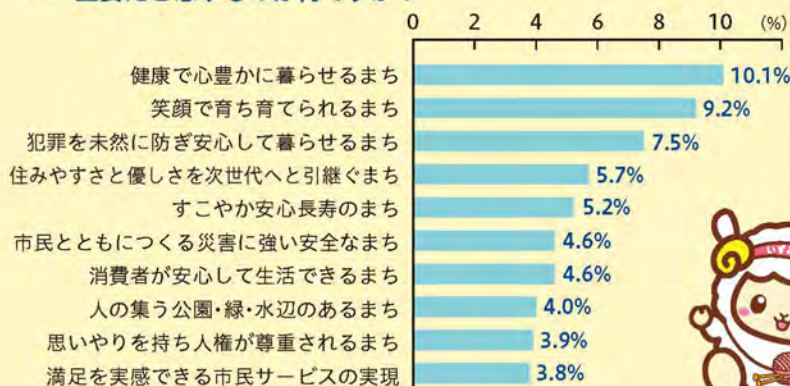
アンケート結果
詳しくはこちら▶



Q. 総合的にみて、泉大津市は住み
よいところだと感じますか？



Q. 今後10年間のまちづくりで
重要だと思うものは何ですか？



第3回 11月26日(日)

おづの未来に向けて!何がある？

前回意見交換した内容をテーマ別に分け、テーマごとの個別目標について意見を出しました。出された意見から、重視する視点や共通するキーワードを選び、個別目標を全体的に捉えた基本目標の案を考えました。



第4回 12月23日(土)

おづの未来に向けて!何ができる？

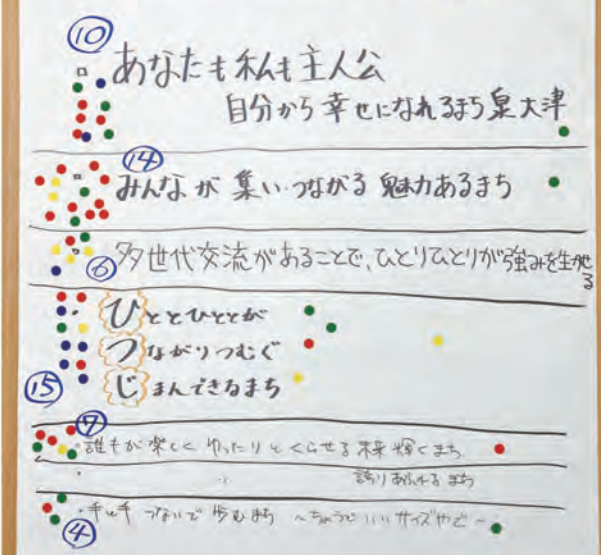
前回まとめた基本目標を文章として再検討しました。一つ一つの言葉の意味を考え、その言葉に込める思いを共有・確認。「刺激し合うまちが良い」「知識のアップデートが大切」「豊かになりたいのは『心』」「みんなでつくる必要がある」など、さまざまな思いがありました。

次に、10年後の市が「こんなまちになっていたらすてきな」という「将来像」を考え、発表しました。また、将来像の実現に向け、市民や地域団体、事業者などが、それぞれ出来ることは何かを考えました。



将来は…
こんなまちにしたい！

泉大津の10年後の将来像



ワークショップ全体を通じて、皆さんが思う「大切にしたいこと」の要素が浮かびあがりました。その要素を、要所に散りばめ、溶け込ませながら、今後、取りまとめを行います。

中学生ワークショップも開催

12月18日(月) つむぐ ひろがる #おづの未来 ジュニアラボ

市内3中学校の生徒16人に参加いただき、市の現状で思うこと、10年後は自分たちがどうなっているのか、住み続けたい・帰ってきたいと思うまちとはどんなまちかを考えました。



図書カードネットギフトを配布します (18歳以下の子ども対象)

担当 生涯学習課

物価高騰などで家計が影響を受ける中、継続的な読書活動を支援するため、18歳以下の対象者に図書カードネットギフトを配布します。

■実施時期・配付方法

2月下旬から、対象者あてにゆうパックなど受け取りに押印か署名が必要な方法で配布。

■対象者と図書カードの金額

令和5年11月30日時点で本市に住民登録があり、①②いずれかにあてはまる人

- ①平成23年4月2日以降に生まれた人(小学生以下)…5,000円
- ②平成17年4月2日～平成23年4月1日に生まれた人…1万円

■図書カードの種類

図書カードネットギフト(市内書店でも使用可)

問合 図書カード配布事業コールセンター (Tel) 0725・51・7611)



Q & Aなど、
市ホームページはこちら



泉大津急性期メディカルセンターの診療科について

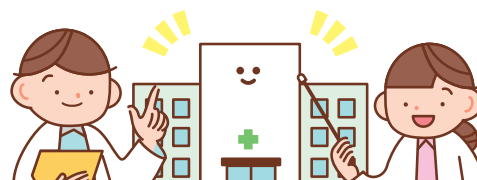
問合 市立病院事務局総務課 (Tel) 0725・32・5622

今年12月に開院を予定している泉大津急性期メディカルセンターの診療科についてお知らせします。

※お知らせの診療科は現時点での予定であり変更となる可能性があります。

■診療科(25科)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|----------|
| • 内科 | • 循環器内科 | • 血液内科 | • 脳神経内科 |
| • 消化器内科 | • 呼吸器内科 | • 内分泌内科 | |
| ----- | | | |
| • 外科 | • 乳腺外科 | • 脳神経外科 | • 形成外科 |
| • 消化器外科 | • 整形外科 | • 心臓血管外科 | • 肝胆膵外科 |
| • 呼吸器外科 | | | |
| ----- | | | |
| • 婦人科 | • 皮膚科 | • 救急科 | • 病理診断科 |
| • 泌尿器科 | • 放射線科 | • 麻酔科 | • 放射線治療科 |
| • リハビリテーション科 | | | |



■泉大津 急性期メディカルセンター 特設サイト案内

急性期メディカルセンターの各種情報を掲載しています。

詳しくはこちら



泉大津急性期メディカルセンターが誕生します

令和6年12月、泉大津市立病院と府中病院は機能を再編・統合します。それに伴い、高水準の医療提供が可能な高度急性期病院として泉大津急性期メディカルセンターを、現在の府中病院は回復期・地域包括ケアを担う病院へと役割を変え、それぞれが専門性を高め、安全で安心な医療提供を目指します。



救急病院の
機能向上に
期待してね！

パブリックコメント募集

問合 地域経済課

泉大津市商工業振興ビジョン(案)

社会経済状況や産業構造の変化を踏まえ、特に商業と工業に焦点を当て、泉大津市の目指すべき商工業振興の方向性や具体的な施策を掲げることを目的に「泉大津市商工業振興ビジョン」を策定します。

募集期間 2月22日(木)～3月21日(木)

閲覧場所 市ホームページ、情報公開コーナー(市役所1・4階)、地域経済課窓口、図書館シープラ、南・北公民館、総合体育館

提出方法 住所、氏名、ご意見を記入の上、地域経済課へ持参、郵送、ファクス、メール、閲覧場所に設置の回収箱への投函のいずれかで提出してください。
※様式不問・電話受付不可。

宛先 郵送: 〒595-8686 (住所記載不要) 地域経済課

Fax 0725・32・6000

✉ keizai@city.izumiotsu.osaka.jp

市パブリックコメント
一覧ページ



UKKウォークテスト参加者募集！(市民対象)

～ウォーキングであなたの“本当の持久力”がわかる！～

担当 成長戦略課

大阪大学と大阪体育大学がUKKウォークテストを実施します。

UKKウォークテストとは、フィンランドの身体活動研究所で開発された市民の運動・身体活動を促進するための持久力テストです。

このテストでは、一定のペースで2kmを早く歩くだけで持久力を高精度に推定することができます。また、テストの結果から、個人の体力や目的に合ったウォーキング方法のアドバイスを藤田教授をはじめとした専門家から受けることができます。

希望者にはウォーキング中の“最大酸素摂取量”を実測するオプションもあります。



講師 大阪大学 藤田 和樹氏
大阪大学全学教育推進機構 教授
医学系研究科スポーツ医学

UKKウォークテスト

日時 2月12日(祝)、3月10日(日)・16日(土)

午前の部 午前10時30分～午後1時

午後の部 午後1時30分～4時

場所 シーパスパーク **定員** 各回10人

UKKウォークテスト
申込フォーム



最大酸素摂取量テスト

日時 2月18日(日)、3月17日(日)

午前の部 午前10時～午後0時30分

午後の部 午後1時30分～4時

場所 大阪体育大学(泉南郡熊取町朝代台1-1)

最大酸素摂取量テスト
申込フォーム



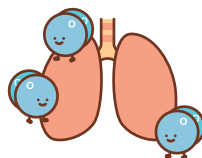
【共通項目】

対象 20～74歳で歩行能力に問題のない健康な市民

申込 二次元コードから

問合 大阪大学全学教育推進機構(担当 藤田)

✉ info.ukk.walktest@gmail.com



受賞者一覧(敬称略)

| 賞 | 賞金 | 作品タイトル | 氏名・年齢 |
|-------------------|---------------|----------|-----------|
| オリアム随筆賞 (最優秀賞) | 50万円 | 毛布の涙 | 本田 美徳(61) |
| 優秀賞 | 5万円 | 藍染の手ぬぐい | 長谷川 潤(63) |
| 優秀賞 | 5万円 | 奇跡の通園かばん | 後藤 里奈(35) |
| 佳作 | 3万円 | アゲハ蝶 | 池永 恵子(63) |
| 佳作 | 3万円 | 父の昔話 | 浅野 憲治(66) |
| 佳作 | 3万円 | 絹の小風呂敷 | 森 あき(49) |
| 泉大津市長賞 | 市特産品 2万円相当 | 毛布と私 | 加納 博子(59) |

※年齢は受賞作品が発表された
令和6年1月4日時点のものです。

受賞作品
掲載ページ



衣服や繊維製品にまつわる思い出、感動したことなどをテーマとしたエッセイで「繊維のまち・泉大津」を広くPRするために創設した第12回「泉大津市オリアム随筆(エッセイ)賞」の受賞作品が、全国から応募のあった243点の作品の中から選考されました。

選考は、難波利三氏、有栖川有栖氏、玉岡かおる氏、吉村萬壺氏の4氏により行われ、白熱した議論の結果、「オリアム随筆賞(最優秀賞)」を含む上位6作品と、特別賞である「泉大津市長賞」を最終決定しました。入賞全作品は市のホームページに掲載しています。

また、3月16日(土)にテクスピア大阪で受賞者の表彰式および、選考委員をパネリストに迎えた文学フォーラム「オリアムエッセイ教室2024」の開催を予定しています。

※詳細が決まり次第、市ホームページでお知らせします。



難波 利三氏

最優秀賞『毛布の涙』は、書き出しが大袈裟だと思いつつ、読み進めるうちにぐいぐい引き込まれ、気がつく自分の涙腺も完全に弛んでいた。遺族支援という苛酷な任務の実態が生々しく描かれ、非業の悲しみと寄り添う人間愛が胸を打つからだ。貴重な記録としても遺したい作品である。

優秀賞『藍染の手ぬぐい』は、出来過ぎた美談仕立てではないかとの邪念をふと覚えるが、読後の感動がそれを払拭する。凛々しく成長した若者の姿が目に見え、『奇跡の通園かばん』は、文章がこなれて読み易く、描写も丁寧で二つのかばんが見えるよう。そのかばんで偶然結ばれた絆がしんみりと、後味良く伝わる。

佳作『アゲハ蝶』は、的確な文章で随所にリアル感が漂い、黒のイメージも効果的で兄妹の深い情が偲ばれる。『父の昔話』は、丁寧言葉の書き方が内容に相応しく、心に響く。ラストに微かな希望が差すのもいい。『絹の小風呂敷』は、切り口が新鮮で全編に明るさが張り、意外性が楽しい。読後、つい笑みがこぼれてくる。

泉大津市長賞『毛布と私』は、どこかユーモラスな筆運びが好ましく、愛すべき祖父像が鮮明で結末も決まっている。



有栖川 有栖氏

最優秀作の『毛布の涙』は、東北の被災地での苛烈な体験を生々しく書き抜いており、強い作品になった。毛布の描き方にもはっとさせられ、全体的に記録性も感じる。

優秀作は二編。『藍染の手ぬぐい』は感情表現に抑制が利かせたことで(「込み上げるものがあった」で充分)、かえって読む者の心に響く。一方、『奇跡の通園かばん』には日常の中での劇的なめぐり合わせと。その中で動いた作者の気持ちが細かく素直に綴られている。

佳作三編のうち、『アゲハ蝶』はまず文章が優れており、切り取られたエピソードも印象深い。亡き兄に寄せる作者の想いがしみじみと伝わってくる。『父の昔話』は、九十歳の父親が昔話を聞かせてくれた後、「それ以上何も言いませんでした」というのがポイント。『絹の小風呂敷』は、帯を買うはずが小風呂敷になり、さらにそれが……という展開が面白く、興味深い。

泉大津市長賞の『毛布と私』は、ユーモアを交えて「毛布の良い点」が語られ、楽しく読めた。

選考委員による選評



玉岡 かおる氏

最優秀作の『毛布の涙』は、あれだけの被害と悲劇をもたらした東日本大震災も、年々記憶は薄れゆく。だがこの人にしか書けない体験は、確実にフィードバックさせる記録文学になっている。

優秀賞『藍染の手ぬぐい』は、ドラマのような巡り合わせだが、少年を励まそうと与えた藍染めの手拭いの、褪せた色のかげんが効いている。歳月は偉大。『奇跡の通園かばん』は、こちらもドラマのような巡り合わせ。奇跡という言葉がおおげさにも感じたが、少年の成長を見届けられなかった母親に代わって注ぐまなざしが暖かく、余韻が残った。

佳作『アゲハ蝶』は、亡き人の気配をふと近くに感じる時。それをアゲハ蝶に象徴させた感性が響く。『父の昔話』は、一つの時代に区切りをつけようとするのに、父は是非を告げず、よき思い出だけを語ってきかせる。場面が目に見えようだった。『絹の小風呂敷』は、結婚のしきたりに寄せる思いの、今、昔。明るい筆致に好感が持たれた。

泉大津市長賞『毛布と私』は、毛布工場のある町の景色を、視覚だけでなく音でも綴った。テンポもいい。



吉村 萬壺氏

冬の寒さがよく似合うオリアム随筆賞。

最優秀賞の『毛布の涙』は、文章の巧拙を超えた事実の重みが、圧倒的に迫ってくる作品。遺族は初対面がいちばん辛く、二回目以降は落ち着くといった冷静でリアルな筆が涙を誘う。

優秀賞『藍染の手ぬぐい』は、ドラマのようなよい話。藍染の手ぬぐいに劣らず、ぜんざいもまたいい仕事をしていた。『奇跡の通園かばん』は、この話自体は感動的だが、この幼稚園の制度、奇跡よりも悲喜劇の方が多いのではないかと、ちょっと勘ぐってしまった。

佳作『アゲハ蝶』は、亡き兄の一言がずっと引っかかって後悔していた思いが、兄に貰ったショールの温もりで溶けていく。読むほどに心に沁みる作品。『父の昔話』こちらも『藍染の手ぬぐい』同様ドラマのようなよい話。商店街ならではの人情味が伝わってきた。『絹の小風呂敷』は、今回この作品が最も布が主役に立っていると思い、私の中では一番だった。物言わぬ小風呂敷が生きている。さりげないその存在感。

泉大津市長賞『毛布と私』は、こんなかたちで毛布の効用を記した文章を初めて読んだ。ラストの一文も洒落ていた。

第12回「泉大津市オリウム随筆賞」が決定しました！

毛布の涙

本田 美徳・大阪府寝屋川市

◆最優秀賞作品

滂沱たる涙を一枚の毛布が救ってくれた。
三・一一東日本大震災。十二年前、私は関西から宮城県気仙沼市に派遣された警察官だった。若い部下数名を引率し、激しい余震が続く中、バスで亀裂だらけの危険な道路を何十時間もかけてひた走り、現地に着いて怪物のような瓦礫群に息を呑んだ。だが本当の試練は被災地に到着してからだったのだ。

私達が発したのは発災後一ヶ月が経過して、生生存者絶望との情報を得ていた。そして、現地で下されたのは遺族支援という任務だった。遺族支援とは安置所に搬送したご遺体を検視の後で納棺し、遺族が行う仮葬儀に立会うことや、ご遺体の特徴と所持品等が書かれた「安否情報」を確認した遺族がご遺体と対面を行う際の寄り添いだった。私達は制服の上に現地で借りた血だらけの簡易エプロンを着けて感染症の恐れも厭わず寄り添った。中学生の娘さんを亡くされたお母様は遺影を抱いて深く頭を下げられ、小学生の息子さんを亡くされたお父様は「違う！これは俺の子じゃないっ！絶対どこかで生きてるっ！」と認めずに号泣された。一人でも救助できた場合は僅かながらも達成感はあるだろう。だが悲鳴、号泣、慟哭が渦巻く安置所にしか現実存在しなかった。そんな哀しい現場にも、たった一つだけ、安らぎがあった。夜はバスの中で座って仮眠をとるが、東北の四月は底冷えし、厳しい寒さが襲ってくる。見かねた現地警察の方が幾何学模様で施された赤い毛布を全員に配布してくれた。「バキスタンからの援助物資です。使って下さい」肌触りが快適で新品の良い匂いがする毛布。私達はその毛布を頭から被って寒さを凌いだ。やがて皆で奮い立った。悲嘆に暮れ

る遺族を想えばこんな寒さぐらい何だ、俺達が寄り添わずに誰がやるのだと。日が経つにつれ、厳しい寒さに立ち向かうかのように仲間達は使命感を燃やして一致団結していった。

だが、哀しい任務は続く。あれは一体、何十体目のご遺体だっただろう。津波に流された若い男性のご遺体のポケットに遊園地の半券が入っていた。一人の女性が、その男性は遊園地に一緒に行った婚約者ではないかと訪ねて来られたのだ。彼女は同じ半券を所持している。万事体すだ。棺の中の彼を確認してもらわなければならない。言葉に詰まりながら告げた。「気をしっかり持つてとはいえないです。だけど…できるだけ、できるだけ、元氣な彼の顔を思い出して確認して下さい」と。

あの光景は一生忘れないだろう。絹のカーテンを切り裂くような彼女の悲鳴が約二十分間も続き、傍らで立ち尽くすことしかできなかった。彼女は私を振り返り、何度も、すみません、と繰り返した。しゃがみ込み、また「いいんですよ。泣いてあげて下さい」とだけしかいえなかった。実は遺族支援をしていて気づいたことがあった。遺族は最初の対面が一番辛いのだ。生きていて欲しいと願っていたのに現実を受け入れることができないからだ。だが、一度対面を果たすと、とにかく安らかに眠ってほしいと願う。だから二回目以降は静かに語りかけられる遺族が多かった。

翌日、彼の家族と共に迎えに来た彼女もそうだった。私に向かつて静かにいわれた。「昨日、お巡りさんに『泣いてもいいよ』っていわれて少しだけ楽になって。彼にも、『泣いてよかったんだよね』っていいました。派遣も終わりなんです。本当にお世話様でした」

思わず奥歯を噛みしめて無言で敬礼を返した。そうしなければ双眸から涙が零れ落ちていただろう。派遣が終われば私達は日常に戻ることが出来る。だが彼女は、遺族は、この地で生きて行かなければならない。「泣いてあげて下さい」といった私に彼女は感謝までしてくれた。逆に聞いたかった。「何故、哀しみの極限でそんなに人に優しくなれるのですか」と。それから間もなくこの派遣も終わろうとしていた。

帰任する日。車内から敬礼する私達を東北の遅く花をつける桜と共に、多くの住民の方や現地の警察官達が涙で見送ってくれた。

帰りの車内で眠る際、あの赤い毛布を頭から被って目を瞑った。すると寄り添った遺族の顔が次から次へと浮かんできて、いつの間にか嗚咽している自分がいた。暖かな毛布の中の空気は私の涙と吐息で更に熱くなって気化し、遂には水滴となって顔の上に舞い戻ってくる。そう、まるで毛布自身が泣いているかのように。

毛布の涙。緊張が続いた派遣が終わり、哀憐の極地だったあの安置所での出来事を車内で思い返した。子供さんを亡くされたお母様。辛い中を最後はご遺体を自分の子だと認められたお父様。あの婚約者を亡くされた女性。

毛布の涙の意味がやっと分かった。私に寄り添ってくれていた毛布と一緒に泣いてくれたのだ。そして十二年の歳月を経て、もう一つ分かったことがある。あの東日本大震災で行った遺族支援は任務ではなく、一人の人間としての寄り添いだったということ。

2市1町広域連携

福祉バスが相互利用可能に

泉大津市:ふれあいバス、高石市:らくらく号、忠岡町:福祉バス

問合せ 福祉政策課

泉大津市・高石市・忠岡町の住民が、それぞれの福祉バスを利用することができるようになりました。

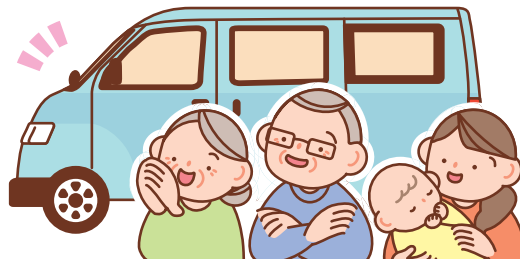
高石市、忠岡町のコースや時刻表などは、福祉政策課窓口または、各市町のホームページでご確認ください。

対象 60歳以上の人、障がい者手帳を持っている人、妊産婦、乳幼児連れの人、対象者の介添え者など
車いすを利用する人は、介添え者と一緒に乗車をお願いします。

なお、詳細は、各市町にお問い合わせください。

利用料 無料

各市町のホームページはこちら



泉大津市



高石市



忠岡町



2市1町広域連携企画

泉大津市・高石市・忠岡町の気になる情報をお届けします！

泉大津市



もんとパーク

南海泉大津駅北側の高架下にある「もんとパーク」は、アーチ広場や芝生ステージがあり、誰でも気軽に遊ぶことができる広場です。キッチンカーの出店やイベント開催も、雨を気にせず行うことができます。お気軽にお問い合わせください。



場所 泉大津市東雲町251-1

(南海本線高架下)

問合せ 泉大津市都市づくり政策課

TEL 0725・33・1131

高石市



高師浜総合運動施設



野球場、運動広場、テニスコート、スケートボード場などで構成される多世代が集い楽しめるスポーツ活動の拠点施設です。今月には、3×3バスケットボール場が完成。ナイター設備も整っているため、ぜひご利用ください。



場所 高石市高師浜丁8

問合せ 羽衣はまゆうグループ

TEL 072・262・7966

忠岡町



忠岡町文化会館

公民館と図書館を兼ね備え、地域の生涯学習の場として中心的な役割の施設です。料理教室などの各種講座や手芸や踊りなどの多様なクラブ活動が行われています。



1階ロビーでは、作品を展示することができます(個人・グループ・町外の人でも可)。詳しくは、お問い合わせください。

開館日時

水～土曜日:午前9時～午後9時

日曜日:午前10時～午後6時

場所 忠岡町忠岡南1-18-17

問合せ 忠岡町文化会館

TEL 0725・33・1151

#おづみんを探そう!

紙面のどこかにスペシャルおづみんが隠れています！

〈ヒント〉



広報いずみおおつの毎号の表紙に、季節の姿に変身したおづみんが登場しているのを知っていますか？

紙面のどこかに、表紙と同じスペシャルおづみんが隠れているから、探してみてね。答えはおづみんX(旧Twitter)でお知らせします。

今月は「バレンタインおづみん」が登場！「バレンタインおづみん」は、情報かわら版のイベントが気になるみたい。

WANTED



おづみんX(旧Twitter) @ozuminofficial

弥生学習館がリニューアルオープン！ 問合せ 弥生学習館 ☎0725・20・1841

昨年9月から大規模改修を進めてきた池上曽根弥生学習館が、3月1日(金)にリニューアルオープンします！

より楽しく学べる施設をめざします。

詳しくは、ホームページ、SNSでご確認ください。



ホーム
ページ



X
(旧Twitter)



3月20日(祝)ふれあいまつり開催

リニューアル記念の「ふれあいまつり」では、楽しいワークショップが盛りだくさん！体験しながら学べるブースがいっぱいです。クイズラリーもあるので楽しみに。

〈ワークショップ〉みんなで火おこし&土器炊飯しよう

日時 3月20日(祝)午前11時～午後1時

場所 体験のひろば(池上曽根弥生学習館敷地内)

定員 先着20組(事前予約)

持物 洗った白米1合または2合(組ごとに炊飯、試食するので食べられる分を持参。持ち帰りはできません)。

申込 2月24日(土)～3月16日(土)午後5時までに代表者の氏名・住所・電話番号・参加人数をメール(件名:ワークショップ申込・火おこし炊飯)

☑gakusyukan-moushikomi@city.izumiotsu.osaka.jp



求む！



チエブクロ

60歳以上の

会員さん & お仕事

☎0725・23・1007

お気軽に
お電話ください



おづみん

仕事の内容と
会員の声

●公園・施設などの除草・清掃

作業後の綺麗になった現場を見るとやりがいを感じます。

●個人宅の清掃

自分の体力・能力に応じて働け、利用者にも喜んでもらえることが嬉しいです。

●工場内の食堂や風呂場などの清掃

さまざまな人たちとの出会いがあり、希望する時間で働けるので健康にもつながります。

●工場内で製品加工

多くの友人ができ、カラオケやゴルフ、食事などプライベートも、とても充実しています。

入会キャンペーン 令和5年度の年会費が実質無料！

3月25日(月)までに入会される人を対象にキャンペーンを実施中です。

キャンペーンのお問い合わせは、シルバー人材センターへ。

対象 初めて入会する人(入会説明会の受講が必要)

定員 先着30人 特典 年会費と同額の商品券を進呈

申込 3月25日(月)までにシルバー人材センター

入会説明会の日程(事前予約制)

- 2月9日(金)午前10時～
- 2月22日(木)午後1時30分～
- 3月14日(木)午前10時～
- 3月21日(木)午後1時30分～

場所 いずれも総合福祉センターを予定



公益社団法人 泉大津市シルバー人材センター

〒595-0026 大阪府泉大津市東雲町9番12号

